

http://www.minamih.net/



13・10・27(日)
南NEWS NO54

J r ユース市民体育大会 1 回戦

10月20日(日) 戸吹G

○南八王子レッド5-1エフパみなみ野 前半3-0
今回は雨の中、人工芝という環境での試合であったためボールコントロールミスやパスが伸びたり・止まったりということが頻発してしまい、いつもよりやりにくかったと思います。

しかしながら、試合の入りは良く、相手が DF からロングボールを蹴ってくると分かった上で前線から良くプレスがかけられ、相手に自由にさせなかったと思います。

しかし試合終盤で集中が切れたのかボールしか見ずマークを外し失点。良い雰囲気でも試合をしていても、こういう失点の仕方は試合をぶち壊しにしかねないので大いに反省すべき点だと思います。

また今回はスルーパスやロングボール 1 本から・セットプレーからの得点がほとんどでしたが、次はより多くの選手がボールに関わり、流れの中でしっかり崩していけるようにしていけたら良いなと思います。

1 年生は 1 人 1 人の出場時間は短かったですが先輩の試合に混ざり良い経験になったと思います。これを糧に頑張りましょう！

b y 小丸コーチ



○南八王子ブルー0-6 ブランコB

中止レベルのどしゃ降りの中での試合。相手もやりにくい条件。その中、相手は自由にボールを動かしていた。

個で負けている相手に対し、マークの確認も怠り、サポートもしない(声のサポートも含め)では話しにならない。結果、数少ない攻撃のチャンスも圧倒的に枚数が足りなくなる。

攻められ続け、まいてっているのはわかるが、全体の意識が上がらなければ今後もこのような結果が待っている。

練習時もそう。若手コーチが経験から、どれだけ良い話し(アドバイス)をしても何も感じて無いのでは？

週 2 日間の活動で、何か一つでも吸収して帰ってほしい。それが無ければ成長は無い。出来るはずなのにやらないのか、出来ないから、やれないのか。

過去には、チームが一つになり、素晴らしい試合もあった。そういう試合は観ていて気持ちが良いし、感動もする。

君たちは、出来るんだから、やる！に変えていこう！！

b y 田中コーチ

J r ユース 寺子屋の感想

9月14日(土)、大学セミナーハウスでのJ r ユース合宿。1年生を対象に寺子屋(パネルシアター)をしました。その時の感想です。

僕は小学校の時から矢上代表にはお世話になっており、すごく感謝しています。今回の寺子屋を聴いていたら懐かしい感じがしました。聴いているいろいろ勉強になりました。

代表の寺子屋は少し難しいところもあるけれど意味や内容が分かったら、すごく自分やみんなのためになる話だと思います

僕が一番印象に残っているのは“三間”です。

- ・僕たちが一緒にいいチームを創っていく仲間
- ・場億達が楽しくサッカーができる空間
- ・僕たちが一生懸命演習ができる時間

この三つの間、三間が心に残りました。

そしてこの三間があるからこそ僕たちは大好きなサッカーができるんだと感じました。

これからも矢上代表の寺子屋を聴いて僕の将来に役立てたいです。

阿部 聖矢

僕が矢上代表の話聴いて心に残ったことは2つあります。

1つ目は人と人と人間の違いです。僕は今まで漢字の意味などを考えたことはなかったのだから心に残りました。

2つ目はサッカーの4つの力です。

1. 状況判断する力
2. 何をするか選択する力
3. 勇気を持って実行する力
4. 反省しフィードバックする力

僕はこの4つの力を使ってサッカープレイヤーとして、人間として生きていきたいです。

矢上代表の話は難しかったけれど、とてもためになりました。

竹内 智哉

話を聴いて思ったことは、僕たちがふだん普通に使っている漢字でも(成り立ちを)深く読み取ってみるとすごく良い意味(優しい漢字)や悪い意味(怖い漢字)になっていたのだからびっくりしました。

すごく小さな情報から真実を見抜く力はとても大切なんだと思いました。それはサッカーでも同じだと思うので、サッカーでも活かしてもっと上手になりたいです。

尾崎 大樹

矢上はいくつかの市内の学校・他市の学校でパネルシアターを使って“優しい漢字・怖い漢字の成り立ちから、なぜ学校で学ぶのかを考える”という出前授業をしています。今回のJ r ユースの寺子屋もその内容でした。環境、平和、沖縄、エネルギー問題についてのスライドを作成し、その授業もしています。

出前授業をする私の思い・願いを代弁してくれている文章を見つけました。作品を読み、スライドにも引用している作家・詩人の池澤夏樹さんの言葉です。

「文明の渚」 池澤 夏樹著 岩波ブックレット 岩波書店 p62

よく見て、新聞を読んで、本を読んで、考えて、悩んで、迷ってください。ぼくはいろいろ言ったけれど、それは全部嘘かもしれない。まことしやかに言っただけで。ある意見を聴いて、ああそうか、と思ったら別の意見を聴いて、いろいろな意見を自分の頭の中でぶつけてみてください。それが多分、それぞれの考える力を磨くことだから。

……迷わないといけないんですよ。それが多分、人間として生きているということでしょうから。

9月の山中湖での寺子屋の後、南の6年生の子ども達に“先生は情報をみんなに提供しただけだからね。あと8年で成人するみんな、これからみんな一人一人が何を学び、どのように考えて何を選択するのが大切です。そのために新聞や本を読み、体験で遠く広くしっかりと学んでください”と話しました。